

熊本地震におけるアレルギー患者家族の方への支援活動についての最終報告

認定 NPO 法人 アレルギー支援ネットワーク

2016年4月14日(木)以降、熊本県 益城町(震度7)を中心に何度も発生しました地震において被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

アレルギー支援ネットワークは、かつて阪神、新潟、東北の震災において、現地に直接は行った支援活動を行いました。しかし、当時その最前線に立った理事が病気で亡くなったこともあり、その後は防災関連の諸団体との連携を中心として、防災・災害支援に備えてまいりました。

今回の地震においては、主に次の2つの団体と連携して、ささやかながら後方支援的な活動をさせていただきました。

そのひとつは、「震災がつなぐ全国ネットワーク」(以下「震つな」)との連携です。「震つな」は、過去の災害を教訓に、共に学び共に提言し、災害時には協働することを主旨に全国約50の団体と個人で組織され、事務局は、認定NPO法人レスキューストックヤード(事務局/名古屋市)内にあります。団体会員は災害支援と啓発に特化した活動をしているNPOが多く、大きな災害が起こると、直後に被災地に入り、専門性を生かして、行政支援、ボランティアセンター支援、避難所運営支援など臨機応変に支援活動を行います。アレルギー支援ネットワークも加盟し、日頃より、アレルギー疾患に対する啓発活動を行っていますが、災害時には、必要と思われる情報をお伝えし、被災地に直接入ることができない私どもに代わり、アレルギーでお困りの方にも目配りをさせていただくよう、お願いをしています。

今回は、被災地に入った「震つな」メンバーからの報告を、メーリングリスト上で把握し、状況に応じて、アレルギー相談窓口や支援物資の供給体制などをお伝えし、アレルギーでお困りの方がいらっしゃったら私どもにつないでくださいと発信をしました。(4月17日・4月28日)

また、名古屋市内の行政、NPO、災害ボランティア団体などで構成する、「名古屋災害ボランティア連絡会」(5月12日/月1回開催)でも、被災地に支援に入った数団体より状況を伺い、更なるご協力をお願いしました。日頃から顔の見える関係にあることで、スムーズに支援のお願いをすることができました。

もうひとつは、日本小児アレルギー学会(以下、学会と略します)の活動に協力しました。熊本にはもともとアレルギー専門医が少なく、被災地の中央にある国立病院機構熊本医療センター小児科の先生を中心として、学会の支援活動が展開されました。現地の医師は自らも被災され、被災者全体の治療にもあたる立場にありました。そのため学会としては、支援の中間拠点を国立病院機構福岡病院において、行政や国立病院機構の支援体制の一部にはいる形で現地に必要な物資を届けるなどの体制を整えました。日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会の小児アレルギーエドゥケーター(以下、エドゥケーターと略します)の方たちも、情報収集や支援物資の管理・流通に協力されました。また、日本栄養士会も、食を中心とした支援活動を展開されていたので、食物アレルギーに関連する支援について学会と連携する体制が作られました。

学会を中心としたこうした支援体制は、迅速なメール審議などにより、発災後約1週間で作られました。

アレルギー支援ネットワークとしては、かつての教訓の元に、現地に単に支援物資を送るだけの活動を控えて、防災ボランティアの方たちから得た現地情報を学会に伝えたり、学会の行う支援活動について防災ボランティアの方たちに託して現地に伝えて頂いたりという、後方支援を行いました。そして、現地の物資受け入れ体制が整ったことと、現地が必要とする物資を確認した後、これまで備蓄していた下記の支援物資を、4月22日に福岡病院に発送しました。ここを経由して熊本医療センターなどに届けられた物資は、現地の患者会の方たちのご協力もあって、必要とされる方たちに渡されていったと伺っています。

アルファー化米	わかめ126袋、きのこ74袋、ひじき100袋	300袋	6箱
レトルトカレーごはん	救給カレー	50袋	1箱
レトルトハヤシ	レトルトハヤシ 120個(2c/s)	120個	2箱
マスク	マスク (40枚入×15箱)	600枚	1箱
吸入器	メッシュ式ネブライザNE-U22	1台	1箱
	コンプレッサー式ネブライザNE-C28	3台	
肌着	半袖シャツ KID'S(サイズ110/120/130/140/150)	各5枚	1箱
	半袖シャツ WOMEN(S/M)	S5枚・M4枚	
	半袖シャツ MENS(L/LL)	各5枚	
シート	アレルキャッチャーシート(150cm×200cm 1枚入)	50枚	2箱
合計14箱			



また、かねてから整備していた安否確認システムに登録をされていた熊本県・大分県の方に対しては、4/15(金)に「安否確認メール」を配信し、登録者全員の無事が確認できました。被災地からのSOSは、4/17(日)に1件届きましたが、安否確認システムには登録されていない方でした。アレルギー対応食品供給体制が整いつつありましたので、相談窓口や物資の拠点を伝えることができました。

ゴールデンウィークまでは、熊本医療センターに物資提供窓口があり、その後は、熊本市と熊本県に移行しましたが、連休後のSOSは無いようでした。熊本市は比較的早く流通が復旧したので、アレルギー対応食品に関するニーズも少なかったと伺っています。

今回の活動のポイントは、混乱している現地にやみくもに物資を届けて、現場の方たちの負担を大きくしない、ということにありました。実際、現地の医師やエドゥケーターの方たちは、総合的な医療活動を求められるため、アレルギー支援に特化して動くことができないというジレンマがあったようです。

小児アレルギー学会の支援活動が、6月末をもちまして終了されたことに伴い、当団体の支援活動も終了いたしました。

皆さまからいただきました支援金は、以下のように使わせていただきましたのでご報告いたします。

熊本地震 支援金収支計算書

平成 28 年 9 月 30 日

	H28 年度	内訳
熊本地震支援収入		
支援金収入	245,569	15 件(企業 1 社、個人 14 名)
収入合計	245,569	
熊本地震支援経費		
通信運搬費	9,072	ヤマト 14 箱
物品購入費	66,407	アルファ化米(わかめ 126 袋、きのこ 74 袋、ひじき 100 袋)
支払手数料	810	金融機関振込手数料
寄付金	169,280	震災がつなぐ全国 NW 事務局(レスキューストックヤード) 84,640 円、 熊本こども女性支援ネット 84,640 円
経費合計	245,569	

熊本地震におきましては、私ども団体への直接的な SOS は少なく、後方支援という活動になりましたので、アレルギー対応の物資を購入し発送する費用と、被災地に直接入ることができない私どもに代わり、アレルギーでお困りの方にも目配りをしてくださった震災がつなぐ全国ネットワークと、救援から復興にかけて、こどもと女性のケアが見過ごされることがないように、こどもと女性が希望を持ち自ら日常の安心を取り戻すことができるよう支援をしている団体(熊本こども助成支援ネット)に寄付をさせていただきました。

「熊本こども女性支援ネット」は、地震直後の避難所の母子のための環境改善や、心身ともにダメージを受けたであろう母子のために「ハグプロジェクト」、また、この時期だからこそ自然とのふれあいを大切にするための「森の教室」活動。さらに、地震発生直後から、救援物資を運び、私設避難所を開設し、親子の日常の安心を取り戻すために、保育をいち早く再開している保育所を支援するために、ベテラン保育士派遣の仕組みをつくる活動をされました。アレルギー支援ネットワークは、愛知県内の子育て支援に係る NPO などの団体とともに、「熊本こども・女性支援ネットあいち」を設立し、この活動を財政的に支援しました。

災害時、配慮すべき対象でありながら、見過ごされる可能性の高い、妊婦・乳幼児、女性を守るためには、平常時に何をすべきか、12月3日に、「熊本こども女性支援ネット」の活動から学ぶシンポジウムを、愛知県東海市で開催し、今後の備えについて議論しました。

このシンポジウムをキックオフとして、今後さらに、自助・共助の仕組みづくりに関する備えと啓発活動を行います。

最後になりますが、いち早く支援金を届けてくださいました皆さまに心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

東日本大震災におけるアレルギー患者家族の方に対する支援活動と同じような活動をすることはできません。しかしながら、被災地にかけつけることはできなくても、アレルギーでお困りの方に支援物資を届けたり、支援情報の提供をしたりすることができます。

また、災害時に困らないよう平常時に備えをしておく大切さをお伝えすることができます。

私どもアレルギー支援ネットワークは、今後も、アレルギー疾患患者家族の方々が災害時に困らないよう、小児アレルギー学会の先生方や小児アレルギーエドゥケーターの皆さま、災害支援のNPO団体や、こども・女性支援のNPO団体と連携をして、アレルギー患者の支援について啓発活動を行っていきます。

平成 28 年 12 月 13 日